

平成29年度 事務事業評価シート(実施計画事業 **経常事業**)

事業の概要	事務事業名	青年の家管理運営事業						担当部	こども未来部		
	会計区分	一般会計						担当課	こども政策課		
	事業期間	平成26年度以前			～ 平成30年度まで			担当係	青少年育成係		
	基本施策・展開方向	3 教育・子育て		13 子育て支援		4 健全な青少年を地域で育てます					
	予算区分	款	10	項	5	目	4	大	2	中	1
	根拠法令・個別計画	小牧市青年の家等の設置及び管理に関する条例									
	目的	何・誰を対象に	市民、青少年及び青年の家利用団体								
		どのような状態にするのか	市民が利用しやすいよう施設整備の管理をするとともに、青少年の仲間づくりを通じて、友愛の精神を涵養したり、ボランティア活動に目を向けることを目指して、より多くの青少年の参画を図る。								
	内容(手段) 目的達成のため どのような事業 を実施したか	<p>◆28年度の実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設の管理とともに、青少年講座の企画・運営を指定管理。 サークル活動等への支援。青少年団体1、青少年育成団体8、生涯学習団体5の合計14団体を青年の家登録団体として、使用料の一部免除を行っている。 不登校の悩みを抱える児童生徒の適応指導教室(学校教育課主管)への協力・支援を行った。 青少年の健全な成長と地域に役立つ人材の育成を目指し、青年講座を4講座(ヨガ、護身術、ゆかたの着付け、干支づくり)を開催。31人(延べ73人)の受講。親子講座を5講座(コスメ作り、オリエンテーリングと小牧山探検、春を楽しもう、ガラスアート、クリスマスリース)を開催。37組79人の受講。、ジュニアセミナー6講座(和太鼓、よさこい、キャンプ、キッズダンス、シーサー作り、オカリナ)を開催。125人(延べ660人)が受講。 青少年講座修了後に結成された同好会に発表の場を提供するとともに、「青年の家フェスティバル」を開催し、青少年活動の交流を深めた。 <p>参加団体:発表7、展示1、体験1計9団体、来場者数:約250人(主演者含) 「寺子屋」を夏休みの8日間、春休みの3日間開催し、安心して勉強や遊びに集中することができるよう、こどもの居場所づくりを実施。合計170人の利用。</p> <p>◆28年度直接経費の内訳(支出ベース)</p> <p>管理運営委託料(26,689千円) 創垂館現況調査委託料(1,500千円) 負担金等(5千円) ◇その他財源の内訳 青年の家使用料(709千円) 資料複写代金(23千円)</p> <p>◆29年度直接経費の内訳(予算ベース)</p> <p>管理運営委託料(52,007千円) 負担金等(57千円)</p>									
	受益者負担	有 施設使用料、複写代金									

		単位	H26決算額	H27決算額	H28決算額	H29予算額		
コスト	費用	直接経費	千円	25,113	26,439	28,194	52,064	
		正職員	従事者数	人	0.20	0.20	0.20	0.20
			人件費	千円	1,125	1,125	1,125	1,125
		その他職員	従事者数	人	0.00	0.00	0.00	0.00
			人件費	千円	0	0	0	0
		費用合計	千円	26,238	27,564	29,319	53,189	
	対前年比	%		105.0	106.3	181.4		
財源	一般財源	千円	25,526	26,820	28,587	52,438		
	国・県支出金	千円	0	0	0	0		
	その他財源	千円	712	744	732	751		

業	活動指標名	単位		H26	H27	H28	H29
	績	開館日数	日	目標	308	308	308
実績				308	308	308	
	講座開催回数	回	目標	40	40	40	40
			実績	41	51	49	
業	成果指標名	単位		H26	H27	H28	H29
	青年の家利用件数	件	目標	—	—	—	—
実績			4,180	3,778	3,754		
	講座参加者数	人	目標	—	—	—	—
			実績	172	302	235	
			目標				
			実績				
			目標				
			実績				

事業の自己評価	平成28年度の実施結果	事業の達成状況	青年対象講座(4講座)、親子対象講座(5講座)、青少年育成事業等の支援としてのジュニアセミナー(6講座)を開催した。青年対象講座は1講座が受講者が集まらず中止した。4講座とも、定員に満たない受講者で開催した。					
		事業実施における課題	特に青年対象講座は年々、参加者数が減少しており、定員割れにより中止した講座があった。利用状況においても、定期的に利用する団体のメンバーが高齢化や、多忙化などで、青年層が関わる現状は見られなくなっている。					
	平成29年度の実施内容	29年度における実施内容や結果見込み	各種講座の応募において、広報以外に、ツイッター・フェイスブックも活用して、広く募集を呼びかけていくこととした。青年の家フェスティバル開催を計画し、利用団体の交流をはじめ、活動PRの機会を設定し、活性化を図る。					
	平成30年度の事業の方向性	方向性の判定	縮小	対象や手段の絞込み等により、事業のボリュームを縮小すべきもの				
	削減額・削減対象	事務事業評価による額	270	千円	予算区分	13	節	節
	判定理由・削減内容	活動指標、成果指標で、回数や参加者数が減少している。青年対象講座の開催を縮小を検討していく。指定管理が(一財)こまき市民文化財団へ移行するため、委託料に含まれていた人件費(活用協会退職手当等)は、30年度は見込まれないことから、平成29年度予算額、13節委託料52,007千円のうち退職手当分(23,696千円)を除いて、委託料28,311千円から消耗品費等を含めて、全体的に270千円の削減を図る。						
	30年度以降の実施内容	講座開催については、(一財)こまき市民文化財団と調整を図りながら進めていく。						

二次評価	方向性の判定	判定理由
	縮小	一次評価のとおり。平成30年度以降の事業費(一般財源)は、原則的に、平成29年度当初予算の金額から本年度の事務事業評価による額を控除した金額を上限とするともに、引き続き、効果的・効率的な事業実施に努められたい。